

「あきらめない！」

少しを、次々と、時間内に

「できるを重ねる」

自信

平成30年12月20日

北九州市立木屋瀬小学校

校長 瀧上 正彦

今年一年間お世話になりました

先日、3年生の子どもたちと「美術館」に行ってきました。3年生というまだ幼さの残る子どもたちが、ホンモノの絵と出会い、どんな反応をするのか興味深く見ました。展示の中に、「真っ黒に塗られたタタミ大の2つのキャンバスを並べて壁に貼り付けた作品」がありました。私には作品の意図が分かりません。しかし、それを見た男の子が、「この扉の中から赤ちゃんが飛び出してきそうです」と感想に書きました。幼い頃だからこそ、心の目で見えるものがあるのだと思いました。ホンモノは子どもたちの心を揺さぶり、感動を与えます。

私たち大人は、感性豊かな小学生のこの時期に、子どもたちにホンモノと出合わせ、どれだけ子どもたちの心を揺さぶることができるでしょうか。年末を迎え家族が集まるひとときに、この一年間を振り返り、自然や生命との出会い、人との出会い、スポーツで汗を流す喜び、友と語り合い共に涙する瞬間…、こうした心揺さぶられた瞬間を子どもたちと思い出し、新たな年に向かうエネルギー「かくれたチカラ」を引き出したいものです。

※重要

水曜日6校時を増設します 4・5・6年生 2月より

別途プリントを配布していますが、2月より、4年生から6年生まで、水曜日に6校時を増設することにしました。

水曜日はチャレンジタイムや掃除をカットするなど、下校時刻が遅くならないように工夫しましたが、これまでよりも20分間ほど下校時刻が遅くなります。逆に、1～3年生は、下校時刻が20分間ほど早まります。

5年生は、2月から3月まで放課後毎日30分間ほど、担任外職員も協力して毎日補充学習を行なう予定です。

自転車事故に注意

木屋瀬校区は、平地であることから、子どもたちの自転車の利用が多い地区です。しかし、この一年の間に、駐車場から車道に出る車が、歩道を走行する児童の自転車と接触する自転車事故が5件以上発生しています。

特に薄暗い時には、車から自転車は見えにくく、自転車も急には止まれないため、事故の発生率が上がります。ご家庭でも、ライトやブレーキ、空気圧等、車両の整備や走行上の注意など、しっかりとしていただけたいと思います。



お小遣いの管理をしっかりと

冬休みは、クリスマスプレゼントやお年玉をいただくなど、子どもたちがお金を管理する機会が増える時期です。いただいたお金を無制限に使わせるのではなく、子ども名の通帳や小遣い帳を作り管理させたり、大人が預かって遣い道を話しながら管理したりするなど、工夫したいものです。

また、小学生でもスマホをもつ子どもが増えてきました。学校としては、学童期の発達段階や犯罪に巻き込まれる危険性、依存性などを考慮すると、小学生段階でのスマホの使用はさせないで欲しいと考えています。

子どもは、「みんなもっているのに私だけなぜダメなの」と言うと思いますが、「みんなって誰?」「ウチはウチ」としっかり子どもと話し合っ決めていただけたいと思います。



シリーズ 子育て応援

～校長の独り言～

親ばか力で才能を引き出す

辻井いつ子著 「親ばか力」より

全盲のピアニスト辻井伸行氏は、2009年世界有数の国際ピアノコンクールで優勝しました。母であるいつ子氏は、全盲という障害がある伸行を産んだとき、心身ともに疲れ切り「困った子」だと思っていました。しかし、あるきっかけから「天使」だと思えるようになったのです。

ある日、いつものように掃除機や洗濯機の音で、火がついたように泣き出し手に負えないと困り果てていたとき、その原因が、掃除機音、スーパーのレジ音など、その音に耐えられない良質の「耳」を伸行がもっていることに気付いたので。この子の過敏な聴力は、実はこの子の最大の長所ではないか。神様が与えてくれた、わが子・伸行への最大の贈り物なのではないかと考えたのです。そして、いつ子氏の新たな子育てが始まりました。

1 子どもの可能性を信じる

我が子の「ダメな姿」に惑わされず、この子には引き出されることを待っている大きな可能性がある、強く信じる。「もしかして天才かも」という気持ちを持ち続ける。

2 ファン第1号になる

子どものやる気が定まってきたら、親子で夢を共有し、親は子どもの「ファン第1号」になって応援する。うまくいってもいなくても支えてくれる人がいるという安心感が大切

3 「小さな達成感」が宝物

目の前の小さな目標を、一つ一つやり遂げることが大切。子どもはどんな小さなことでも達成感を手にすると、「次へ」の意欲が湧いてきます。小さな達成感を積み重ねる手助け。

4 本物に触れさせる

目先の結果より心を耕すことが大切。五感で味わう大自然、生演奏の音の輝き…本物だからこそその「力」を体感させる。

5 明るく、楽しく、あきらめない

どうせやるなら親自身が明るく楽しく。暗くなってちゃ始まらない。そのプラス感覚が子どもの養分になる。そして、あきらめない熱意でチャンスと呼び寄せよう。

いつ子氏は子どもと夢を共有しただけでなく、辛くて巨大な壁を共に乗り越えてきました。遠い先を見てしまうと絶望的な思いにとらわれます。

そんなとき、「とにかく一日を乗り切ろう」次の日になったら「また一日を乗り切ろう」と積み重ねてきたのです。それが「親ばか力」。そしてある日とてつもなく遠くまで来ていることに気付くのです。

あなたも「親ばか力」働かせてみませんか?